

一
号
天
秤



Mint Club
ミントクラブ



造 币 局

2005年日本国際博覧会（略称：愛知万博）記念5百円（ニッケル黄銅）貨幣、
中部国際空港開港記念5百円（銀）貨幣の図柄について

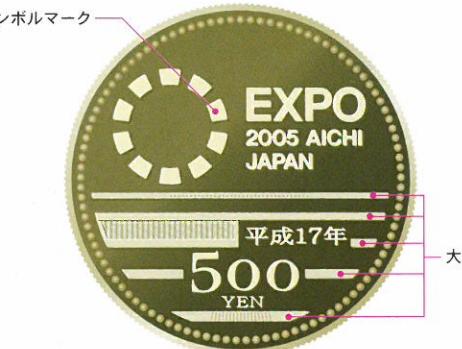
ミントクラブ秋号で、紹介できなかった標記の記念貨幣の図柄を説明します。

2005年日本国際博覧会（略称：愛知万博）記念5百円（ニッケル黄銅）貨幣

【表面】



【裏面】



（表）地球に世界地図を描いたデザインを背景として、2005年日本国際博覧会の愛称ロゴタイプである「愛・地球博」を配しています。

世界の多くの国々から人々が集い、多彩な交流を通じて「自然の叡智」に学ぼうとする「愛・地球博」のコンセプトを表しています。

（裏）2005年日本国際博覧会のシンボルマークと、国内5回目の国際博覧会の開催に因み、5本のストライプを配することによって「大地」を表現しています。

裏面の図柄は、1万円金貨幣及び千円銀貨幣と同様です。

中部国際空港開港記念5百円（銀）貨幣

【表面】



【裏面】



（表）旅客機の機内から愛知県常滑市湾岸沖の中部国際空港を俯瞰しているイメージを、旅客機主翼を配し表現しています。

平成17年開港にちなみ、主翼の航跡として17本の直線を配置しました。

（裏）潜像により2つの図面を描いていますが、1つは、空港の開港を祝したリボン（貝殻をイメージ）の内側に時計の文字盤を描くことにより24時間空港を表現し、その中に空港を飛び立つ旅客機を配しています。

もう一つは、リボンの内側に空港が位置する伊勢湾を中心とした中部地方を描写しています。

これら二つのデザインが潜像となっており、見る角度等により交互に、また重複して現れるよう工夫し、中部国際空港から旅客機が世界に飛び立つイメージを表現しています。

北京切手と貨幣の博覧会

10月28日（木）から10月31日（日）まで中国・北京で開催された「北京切手と貨幣の博覧会」に参加し貨幣セットの販売、メダル・章牌等の展示を行ないました。

この博覧会は、貨幣やメダルを展示・販売するブースの他、切手関係のブースも出展されており、1日約2千人が訪れる極めて活気のある博覧会です。

当局も「ハローキティ誕生30周年2004 プルーフ貨幣セット」「聖徳太子メダル」及び「燕花子七宝章牌」などの展示、日本国際博覧会（通称：愛知万博）の記念貨幣等をデザインしたチラシ・造幣局の事業案内の配布を行い、当局製品の紹介・周知宣伝に努めるとともに、「ハローキティ誕生30周年2004 貨幣セット」「桜の通り抜け貨幣セット」「世界無形遺産貨幣セット」とび「通常プルーフ貨幣セット」の展示・販売を行ないました。

なかでもハローキティ貨幣セットは、ハローキティの形状をした外装ケースが人目を引き、ハローキティそのものが中国でも人気があることから、持参した30個が2日目でほぼ売れ切れ状態となりました。

さらに、愛知万博の記念貨幣等を中心に、多くの海外コインディストリビューターと積極的な商談を行うなど、今回も大変有意義な参加でした。



造幣博物館

次号に続き、造幣博物館の1階展示室の資料を紹介します。

近代化への先駆け

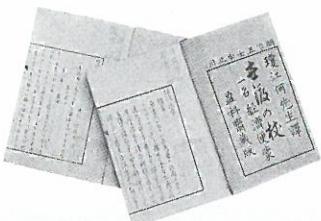
明治初期、大型の機械設備は輸入しましたが、貨幣製造に必要な各種の器械の多くは自給自足するよりほのかなかつたので、硫酸・ソーダ・石炭ガス・コークスの製造や電信・馬車鉄道などの設備並びに天秤や計数機などの器械器具類の製作を局内で行い、また、事務面では自製インクを使い、複式簿記を採用し、風俗面でも断髪・廃刀・洋服着用などを率先して行いました。今回はそうした製造及び文化に関するものを紹介します。

1. スイス製硫酸煮沸壠



明治5（1872）年、硫酸製造所開設時に使用していたスイス製の石英ガラス壠です。

2. 日進学社で使用された教科書



日進学社は、官吏（公務員）とその子弟の教育を目的として、明治5（1872）年造幣寮に開設された学校で、国の教育制度が整った明治22（1888）年に廃止されました。写真は、当時使用していた「世渡の杖」という経済の教科書です。

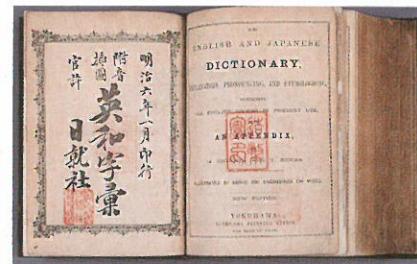
3. 和英語林集成（和英辞典）



ヘボン博士が編纂したこの写真の辞典は、造幣首長キンドルが創業当時に使用していたものです。

「和英語林集成」は、慶応3（1867）年わが国にはまだ活字印刷技術がなかったので、当時上海にあったアメリカの教会の印刷所で、1500部限定印刷された『日本最初の和英辞典』で、現存数が少ない貴重なものです。

4. 附音挿図英和字彙（英和辞書）



この辞書は、西洋式活版印刷により国内で最初に印刷された大型辞書（5万5千語収録）で、なかに500余の鮮明な日本初の木口木版挿絵が入っており、現存数も少なく、日本における英語辞書を語るうえでは欠くことのできない貴重なものです。

発行年 明治6（1873）年1月

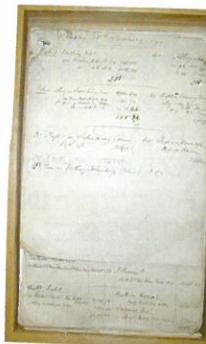
発行所 日就社（横浜）

編 著 柴田昌吉（長崎生まれ。英語小通詞 神奈川裁判所勤務）

子安峻（岐阜・大垣藩士。神奈川裁判所勤務 読売新聞社創設者）

（大阪市立博物館 学芸員 船越幹央氏 調査による）

5. V・E ブラガー自筆の日記草稿

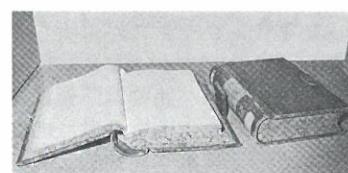


創業当時の簿記組織

証拠 → 日記草稿 → 日記 → 原簿 → 日計表

（日本大学商学部教授 西川孝治郎氏 寄贈）

6. 洋式帳簿



帳簿の右面 C r. 貸 方

左面 D r. 借 方

創業当時の会計事務は、お雇い外国人のV·Eブラガー（ポルトガル人）の指導により行われ、造幣局の簿記（英文）も担当していました。この洋式帳簿は当時使用されていたもので、使用しない時には鍵をかけて保管するようになっており、当時の管理の様子が窺える貴重な帳簿です。

《お詫びと訂正》

前号のお雇い外国人紹介の記事中に誤りがありました。

<誤>マクゴラン → <正>マクラガン

ご迷惑をおかけしました。ここにお詫びして訂正します。

造幣博物館所蔵・外國章牌紹介 11



A | B



A. 葡萄害蟲國際展覽會章牌、表。1884年、イタリア造幣局製。青銅。直徑47.2mm。重量50.5g。美しい赤褐色煮込仕上。連珠のついた三段覆輪の中にウムベルト一世の左向肖像。「UMBERTO I RE D'ITALIA (イタリア國王ウムベルト一世)」の文字。肖像の下に小さく「SPERANZA」の凸文字署名。

ウムベルト一世（1844～1900）（國王在位1878～1900）はヴィットリオ・エマヌエレ二世の子。第二代イタリア國王として人望も厚かったが、1900年モンツァに於て無政府主義者によって暗殺された。

原型彫刻のFilippo Speranza（1848～1903）はイタリアのサン・マルティノに生れ、ロオマ造幣局の原型彫刻家となり、1870年から1903年に死ぬ迄チイフ・エングレイヴァであった。引締まった張りの強い氣品のある作風である。此の肖像も堅剛で且つ頭髪の流れも美しい。當造幣博物館に彼のメダル作品は五點所蔵されてゐる。

（元工藝管理官 松岡隆範 記）

（本稿は、筆者の意向を尊重して筆者の表記をそのまま掲載しています。）

大阪商業大学商業史博物館

前号に引き続き、大阪商業大学商業史博物館学芸員 小田忠氏に、江戸時代の「庶民の金錢感覚」について執筆いただきました。

江戸時代は全国統一的な貨幣制度がはじめて確立した時期として知られていますが、同時に藩札や江戸・大阪間を中心とした各地間為替など信用制度も著しく発展した時代でした。江戸時代に生きた人々が、どのように貨幣を利用していったのか、その生活の一端をご覧ください。



1. 金極・銀極・錢極――

きんきめ・ぎんきめ・ぜにきめと読む。銀遣いの大坂、金遣いの江戸で品物の値を銀あるいは金の値段に極めて支払う事を云い、錢極もある。品物に応じて金で支払う物、銀で支払う物、錢で支払う物があり、支払う対象により色々と遣い分けられていた。

奉公人の祝儀(女性)は金極、呉服物・茶・上等の菓子・上等の蒸し菓子・薬礼・香典・日雇賃・材木代・小間割(家屋の税)は銀極。京都・大阪の貸し家賃は金極と銀極の両方があった。料理代は金極または銀極で、安価な饅頭は錢極、道中の宿代・酒代は錢極であるのが商慣例であった。

ここで問題が生じる、日々金・銀・錢の相場が立ち、錢が高くなったり、銀が安くなることがある。勿論、相場が立つからこの逆もある。

元文3年3月29日の触れによると、錢が高くなり、人々は錢を買ひ占めたり錢を貯蔵するものが増え、一層錢が高くなっている。この様なときに古来より銀極の商品を、錢にて販売することは許し難い事である。古来よりの仕来りを遵守するように伝えている。

同年11月15日の補觸では、錢相場を下げたいが思惑通りにいかず依然として高かった。銀極の商品に対して錢で支払っている。幕府はこの件について不埒だと云っている。もし、銀極の商品を錢で支払うことになると、両替屋で錢と銀を両替しなければならない。両替時に発生する手数料が必要となり、銀極の商品購入代金が余分にかかることになる。庶民は賢く損になることはしなかった。これは銀極が錢極に転化した一例である。

2. 釣り錢――

テレビや映画などの時代劇のシーンで、簪や菓子・饅頭・着物を買って釣り錢を受取る場面がある。このとき、場面に映し出されているのは釣り錢を握りしめた手、つまり、

画面には貨幣を見せないようにしている。この理由は貨幣の小割計算ができなかった事と銀貨の釣り銭をどのように表現してよいかわからなかつた為と推察する。

商品を購入する場合の商慣例があり、金極・銀極・銭極があった。例えば、奉公人の祝儀（女性）は金極、上等の菓子・呉服物・薬礼は銀極。旅籠代・木賃宿代・安い菓子は銭極になっている。着物などを購入した場合、銀貨で支払い釣り銭も銀貨で受取るのが普通であるが、端数が生じた場合は銭でもよかつた。同じ事は金貨でも云える。金一步一朱の商品に対して、金二歩判を出せば、釣り銭は金三朱を渡せば問題は起きない。

厄介なのは、呉服物のように銀貨で支払い銀貨の釣り銭を用意することである。包封は小粒銀のように重量が不定だから、いちいち秤量しなければならない。釣り銭を渡すにも時間と手間がかかることになる。これを合理的にする為に、釣り銭に向くように様々な小粒銀を秤量して包み銀にし、表には銀の重量を書き、裏には包封した両替屋の印を押して流通させることになる。

一例をあげると、呉服の反物が銀7匁8分の値段なら、この反物を購入する場合、呉服は銀極であるから銀で支払わなければならない。買ひ手は手持ちの包み銀を銀7匁8分かそれ以上の包み銀を出せばよい。手元の銀8匁を出せば釣り銭は銀2分である。釣り銭は銀2分か銭で支払うなら銭数十文になる。

銭相場が銭1貫目の場合、銀が11匁8分5厘の相場だと、16文87が銀2分の値、端数の87は切り16文を支払えばよい。

面白いことに銀2分の包み銀を持ち合わせしていても、この包み銀で支払わない場合もある。それは、銭が高いか、銀が高いかによる。もし、銭が安ければ釣り銭は銭で支払うだろう。

また、銭相場が安くなると従前の金極・銀極・銭極の商慣例を無視して、銀極の品を銭で購入するような事が起り始め、その対策として触れを出して従来の商慣例を遵守するように訴えている。

因みに、天保年間の銭不足を反映した史料を紹介する。ある客が銭両替屋へ行き、金1分か金2朱で銭を購入しようとすると拒否された。なぜならこの銭両替屋は銭を売るのみで、結局、銭は底を尽いたわけである。やむなく商家に行き金1分か金2朱で物を買って釣り銭を取ろうと考えたが商家の方も釣り銭を出さない工夫をしていた。そこで客は蕎麦店で飲食した後に金を出して釣り銭を取ろうと考えたが釣り銭を出さなかつた。蕎麦店は銭を持って来なければ蕎麦を食べさせない。釣り銭を乞う客には蕎麦を売らない故の張紙をし、多くの人は参ってしまった。

3. 売金の話――

賣金は現在でもニュースの記事となり金融機関や自動販売機の管理者を悩ましている。賣500円硬貨・賣1万円札・賣5000円札が大量に出回った時期もあり、世間を騒がせたことがあった。類似の話題は江戸時代にもあり、やはり大きな問題だった。当時、包み銀が流通しており、中が見えないのがミソである。

両替屋の貨幣に対する教育は、元服以下の子供たちに金銀包みを包封さすのが慣習があるから、状態の良い貨幣を絶えず見せたり、包み方に修練を積めば、不自然な包み方・おかしな貨幣は一発に見抜く力を保有していた。

貨幣の従事者は一目見て包み銀の善し悪しを判断する能力は十分に持ち合せている。これは習慣が形成した力である。寛政11年の「業用御調向」には常々1枚包みの中に贋物の「なまり丁銀」が入っていた。もし、このような包み銀を持参した者がいれば密かに後をつけなさい、とある。文言はここまでだが、普通は面体・住所などを突き止め私たちに（担当の役人）知らせなさい、とくる。もっとも包み銀の書体・印形共に貧弱に見えたそうである。

これは子供時代からの修練の賜物といえる。この場合は幕令に遵守したからよかつたが、逆に幕府の令に違反した場合は次の通りであった。

〔先日、密かにお触れがあり、怪しい常是の「枚包」を伊勢屋長兵衛方にて、気がつかず買ひ取つた。後で気がつき、包み銀を切り解いて贋物とわかつた。訴え出たが、以前よりのお達しを守らなかつたこともあり、更に売りにきた者の面体も覚えていない事に起因してお咎めがあつた、と云う〕。

寛文11年11月に賣金銀壳賣取締令が出された。その内容は〔似せ金銀を持って来た者には両替屋で渡して、正貨を持参者に返す。知らずに溜まつた似せ金銀は金座銀座へ相対で始末せよとある〕。元禄10年6月の古金銀賣造取締令の内容は、〔似せ金銀を持っていたり、作ろうとする者がいれば、訴えでれば仮に同類だとしても罪を許し褒美を与えると云う〕。

参考文献

- 『類聚近世風俗志』喜田川季莊 室松岩雄編 国学院大学 明治41年
- 『国史辞典』「金極銀極銭極」遠藤佐々喜 富山房 昭和17年
- 『大坂市史』第三巻 大阪市 清文堂 昭和40年
- 『両替年代記 原編』三井高維 柏書房 昭和46年

平成17年1月～3月の貨幣セット販売予定

販売区分	名 称	販売予定価格	備 考
通信販売	平成17年銘通常ブルーフセット(年銘板有)	7,500円	販売要領等については、DMでご案内します。
	同上 (年銘板無)	7,350円	
通年販売	平成17年銘ジャパンセット	1,900円	造幣局構内で販売しています。
	平成17年銘ペーパーウェイト	3,900円	電話での予約も受け付けていますが、製品の送料はお客様にご負担していただくことになります。
	平成17年銘記念日セット	2,000円	
	同上 (録音機能付)	2,900円	

注) 平成17年銘の通年販売の貨幣セットは、それぞれ100円の値下げをしております。

造幣局コインショップ（関空内売店）を 12月20日(月)17時をもって閉店します。

平成11年4月28日に開店し、造幣事業の案内、貨幣セットの販売等の業務を行ない、皆様にご来店いただきました造幣局コインショップ（関空内売店）を閉店することとなりました。

造幣局コインショップは、造幣局構内へ移転し、今後も皆様のご要望に応えてまいりたいと考えています。

皆様のご愛顧に感謝しますと同時に、今後ともよろしくお願ひいたします。



表紙の写真は、第133次製造貨幣大試験が谷垣財務大臣を執行官として平成16年10月25日(月)に執行された1コマです。

人形浄瑠璃文楽七宝章牌のご案内

わが国人形芝居を代表する伝統芸能である「人形浄瑠璃文楽」が平成15年11月に人類の口承及び無形遺産の傑作(世界無形遺産)として宣言されました。

この度、これを記念し「人形浄瑠璃文楽七宝賞牌」を製造販売することとしました。

この章牌の図柄は、表には、演目「冥土の飛脚(作・近松門左衛門)」より梅川・忠兵衛の文楽人形を黒・白・赤・紫・濃紫・緑の全6色の七宝で表現し、裏には、日本の伝統文様である「七宝紋」を背景に「文楽」及び「Bunraku」の文字をデザインしています。

お客様のコレクションの一つに造幣局の工芸品をお加えください。



*写真は約80パーセントの大きさです

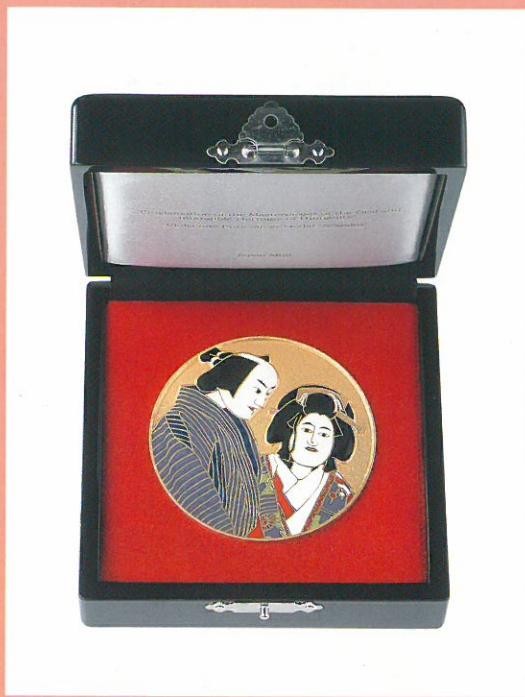
製品仕様

区 分	摘 要
素 材	純 銀
寸 法	直径 約60mm
重 量	約160g
仕 上 げ	七宝・金メッキ
販売価格	120,000円(消費税・送料込)
販売予定数量	100個(申込多数の場合は、販売数を変更することがあります。)
申込期間	平成16年12月9日から22日まで(消印有効)
申込方法	別添はがきにより、お申込みください。
発送時期	平成17年1月中旬から順次発送します。



発行所 独立行政法人 造幣局
〒530-0043 大阪市北区天満1丁目1番79号
電 話 06(6351)6928
造幣局ホームページ <http://www.mint.go.jp/>
編集兼発行 事業部販売事業課顧客サービス室
平成16年12月1日発行(第11号)

このミントクラブはエコマーク商品に認定された再生紙を使用しています



Japan Mint